

---

## 編集後記

---

このところ地球上に起こっている天災の凄さは言語に絶するものがあります。台風や大雨による被害、そして10月に発生した新潟中越地震により、阪神淡路大震災から10年目に再び震度7を経験させられました。新潟中越地震において、透析医療におけるボランティア活動が、透析医会や透析医学会の迅速かつ適切な対応によりスムーズに実行されたことは、この10年の経験が生かされたものと考えます。

本号では、これら台風や水害における実態調査や対策がいち早く掲載されたことは、これからの透析医療の災害対策により有用のことと思います。特に浦河赤十字病院の赤塚東司雄先生の「透析室地震災害と対策およびその検証について」により具体的な内容で寄稿していただきましたので是非とも御一読していただきたいと思います。もし近くに自治体が開設している防災センターがあれば、震度7とはどんなものなのかを経験されておくと良いと思います。

昨年はDOPPS報告がなされており、会員の皆様方も承知されておられると思いますが、秋澤忠男先生によりわかりやすくポイントを押さえた解説をして頂いております。また新潟大学の西慎一先生に「慢性血液透析患者における腎性貧血治療のガイドライン」の解説を寄稿していただきました。それ以外にも高齢化に伴うCAPD療法や透析患者の多くが悩む睡眠障害などの論文を掲載いたしました。

研修セミナーでは、糖尿病患者の増加によって多くなったASO患者への早期の対策がなされれば、患者のQOLの向上や医療費の削減にもつながることになるためASOが取り上げられました。そのほか各支部の特別講演2件を掲載いたしましたのでこれからの透析医療に役立てていただければ幸いに存じます。

最後にご多忙中にもかかわらず多数の原稿を寄稿していただいた諸先生方に深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様方の今後のご活躍を祈っております。

広報委員会委員 奈倉勇爾